



国際間輸送の最適化

日本通運株式会社

日中韓間の効率的な輸送を目指して シャーシの相互通行で海陸一貫輸送を推進

国際間輸送における最適化の一手として、シャーシを用いた海陸一貫輸送に期待が集まっています。日中韓物流大臣会合の枠組みを通じて、日本・韓国間のシャーシ相互通行を行うパイロットプロジェクトを平成24年10月から開始しています。輸送事業者としてパイロットプロジェクトに参画中の日本通運株式会社の取り組みを紹介します。

日韓の相互協力合意のもと パイロットプロジェクトを実施

産業界では、急速な国際分業が進む中、国家・企業の競争力向上のために、国境をまたいだサプライチェーンの最適化が欠かせません。特に自動車や精密機器などの業界では、緻密な生産計画を実施するため、より迅速で効率的な輸送システムを望む声が高まっています。

そこで航空に準ずるスピードながら航空よりも比較的安価な方法として注

目されているのが、シャーシを用いた相互乗り入れによる海陸一貫輸送です。荷積みしたシャーシをそのまま船で運び、相手国の港でトラクタヘッドと連結させ製造拠点まで走行させるというもので、港湾で行う積み替えを回避することで荷傷みを防止し、迅速・効率的な輸送を可能にすると考えられています。

平成24年7月の第四回日中韓物流大臣会合で日韓が合意に至り、このパイロットプロジェクトの実施を決定し

輸送時間短縮と効率化により オーダータイムの圧縮を実現

ました。そして、国土交通省と韓国国土交通部（旧・国土海洋部）協力のもと、日本通運と韓国の天一定期貨物自動車（株）が輸送事業者として参画し、同年10月より日本シャーシの韓国国内通行、平成25年3月には韓国シャーシの日本国内通行をそれぞれ開始しました。

ウイングシャーシ。鳥の翼のように上下に開く構造のため、貨物の搬入を短時間で行うことができる。

パイロットプロジェクトでは、荷主として参画した日産自動車九州株式会社（旧・日産自動車九州）の製造拠点まで、釜山から下関航路を経由し、韓国で製造した自動車部品を輸送しています。輸送時間は従来の7日から4日となり、3日間的大幅短縮となりました。また、側面のパネルが開くウイングシャーシを使用して効率的な荷詰めができること、輸送時の衝撃が少ないために梱包が比較的簡易で済むこと、そして、毎日運航する定期便のRORO船



RORO 船に直接積み込まれるシャーシ。トラクタヘッドは日韓両国で、それぞれの国の車両を使用する。

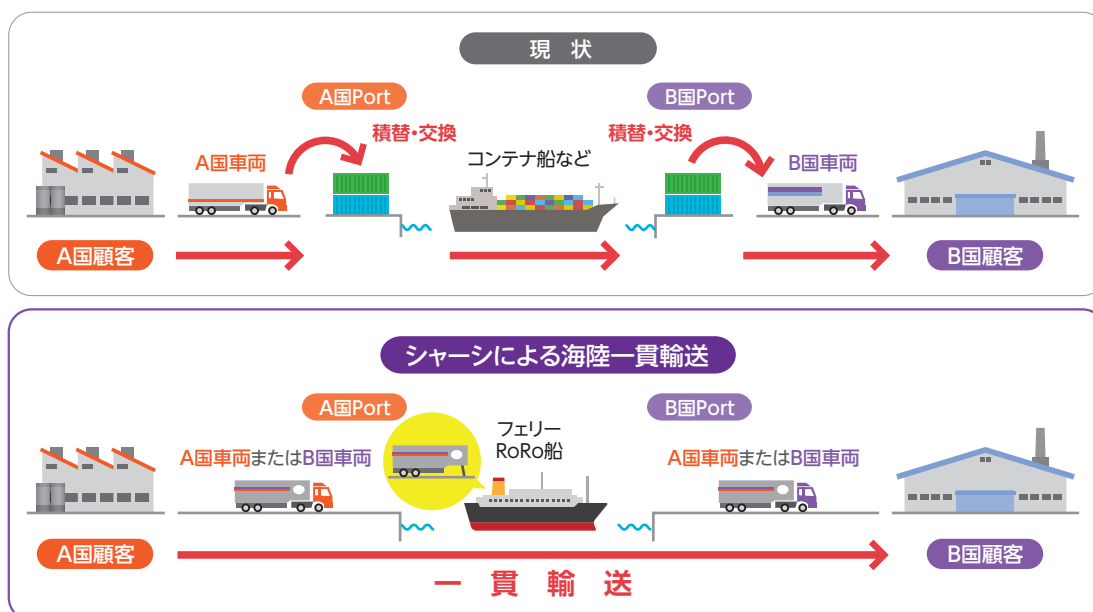
数々の課題を乗り越え 実現した相互通行

シャーシの相互通行にあたっては、日韓で異なる車両規格や登録の手続きなど、多くの事項で調整が必要となりま

を利用して輸送が可能であることなど、さまざまなプラス要因により、サプライチェーンとしても大幅な効率化を期待できることが明らかになりました。

日産自動車九州では、部品メーカーへのオーダーが8週間前から1週間前へと大幅に短縮され、物流在庫も25日間から3日間に圧縮されたとして、高く評価しています。

日韓のシャーシ相互通行パイロットプロジェクトの輸送フロー図



した。日本通運では、韓国側の規定に即していることの証明が最も苦労したと言います。シャーシに関する規定はあっても、その規定に合致しているかを

証明する方法は示されず、一からすべて手探り状態。認証が下りた時はホッとしたと当時を振り返ります。

日本側でも、検疫対応のために

シャーシの消毒はもちろん、走行ルートをおらかじめ農林水産省に提出したり、福岡県警には韓国のナンバープレート掲げた車が走行することを報告したり、スムーズなプロジェクト遂行のために多方面の協力を仰ぎました。また、韓国では初となるウイングシャーシの設計・製造を支援し、輸送ドライバーや積み下ろしスタッフの教育を行うなど、韓国側に対してもハード・ソフトの両面で連携し、技術協力を行っています。

現在は24台のシャーシが走行。今後も、相互通行については継続する方向としています。日本通運では平成26年度中に日韓ナンバーのシャーシをさらに4台追加し、新たなニーズに

備える予定です。

各輸送方法のメリットを活かす 国際間輸送の多様化・最適化へ

これらの取り組みで、メリットがあることを実証した「シャーシによる海陸一貫輸送」ですが、まだコストがやや高く、今後サプライチェーン全体でコストメリットを得られることが課題です。しかし引き合いは多く、日本通運では他の自動車メーカーや他業種などに展開し、利用を拡大する方針です。

一方、中国とのシャーシ相互通行は、現行通関の制約などがあり活用は難しく、ビジネスとして成り立たせるにはまだ調整に時間がかかりそうです。そこでシャーシ活用を働きかけながら、現場では並行してコンテナの改良などコンテナ輸送の効率化に取り組んでいます。また、海に囲まれた地域が多いASEAN諸国では、日韓で得られたノウハウをもとにRORO船とシャーシの連携が期待されています。

複雑化・多様化が進む国際間輸送において、シャーシ、コンテナそれぞれのメリットを活かした輸送の最適化は、国際間の競争力向上に欠かせない重要なカギを握ります。国土交通省では、そうしたノウハウ蓄積のためにも、新しい取り組みとそれを担う企業を積極的に支援していきます。



シャーシには日韓両国のナンバープレートが付いている。



日本通運のウイングシャーシ



天一定期貨物自動車のウイングシャーシ